

大妻女子大学 表千家茶道部 創立55周年記念 雪待茶会

茶道部だより

2004. 12. 12
発行
大妻女子大学
表千家茶道部
責任者
安達美沙
針谷美智子

本日は、雪待茶会にお越し
いただきまして誠にありがと
うございます。

今年の雪待茶会には、大妻
女子大学茶道クラブ多摩校、
大妻高校茶道部の皆様に「ご参
加いただきまして、このよう
な四席の盛大なお茶会を催す
ことができました。

本学茶道部は、今年五十五
周年という記念すべき年を迎
えまして、私たちは大変光榮
に思っております。

長年続いてきた大妻学院茶
道部の伝統と共に、部員一同、
尚一層の稽古を積み重ねてい
きたいと思えます。

五十五年のあゆみ

私たち本校のお茶室は、地
下一階から天井まで吹き抜け
のアトリウムに接した学友会
関係室内にあります。広間三
十畳と、「大妻庵」という又
隠写しの大変立派な小間の二
部屋にて活動しております。

現在私たちは総勢二十六名

で、毎週火曜日と木曜日に稽
古をいたしております。これ
までは、学部の一・二年生と
短大の一・二年生で活動をし
ておりましたが、昨年度より
狭山校舎の学部生が二年次か
ら千代田校舎にて学ぶことと
なり、学部の二年生から四年

生と短大の一・二年生で、よ
り一層活気が溢れております。
上級生・下級生ともに、様々
な学年の部員がいることによ
って、クラスの友人とはまた
違った絆を結ぶことができ、
これまで以上に毎回来しく稽
古しております。



大妻庵

雪待茶会

「雪待茶会」とは、年に
一度、靖国神社境内のお茶
室をお借りして催すお茶会
のことです。「雪はまだかな」
と待っているこの季節に合
わせ、昭和五十一年に「雪
待茶会」と呼び名がつき、
今年で二十八年が経ちます。
長年続いてきた伝統は、大
変すばらしいことだと思っ
ます。立派なお茶室でのお
茶会は心静かに落ち着いた
中で行われ、文化祭とはま
た違った雰囲気があります。
今回のお茶会には、洗心
亭にて本学茶道部が広間と
立礼を、行雲亭にて茶道ク
ラブ多摩校が立礼と高校茶
道部が広間で、それぞれお
茶席を設けております。ぜ
ひ、好きなお茶席へお入
りください。

本年は創立五十五周年と
いうことで、部員一同、よ
り協力し合い、この伝統と
ともにさらにお客様に喜ん
でいただけるお茶会をと、
この日のために頑張ってい
ました。

皆様にお楽しみいただけ
ましたら幸いです。

創立五十五周年に寄せて

私たちが日頃お世話になって
いる先生方に、大変ご多忙中
のところをご執筆いただきま
した。心温まるお言葉を頂戴
いたしました、ありがとうございます。
ございます。部員一同、これか
らも和の心を大事にし、日々
のお稽古を通して精進してい
きたいと思っております。



理事長・学長

佐野 博 敏

大妻女子大学創設と同時に
発足された本学茶道部の五十
五周年を心からお慶び申し上
げます。

お茶はわが国の大切な精神
文化の基礎と広がりを持って
いるようです。

たとえば漱石の「草枕」で
は主人公の画工に次のように
述べさせています。

世間に茶人程勿体振った風
流人はない。広い詩界をわざ

とらしく窮屈に縄張りをして、
極めて自尊的に、極めてこと
さらに、極めてせせこましく、
必要もないのに鞠躬如として、
あぶくを飲んで結構がるもの
は所謂茶人である。あんな煩
悩な規則のうちに雅味がある
なら、麻布の聯隊のなかは雅
味で鼻がつかえるだろう。廻
れ右、前への連中は悉く大茶
人でなくてはならぬ。あれは
商人とか町人とか、まるで趣
味の教育のない連中が、どう
するのが風流か見当が付かぬ
ところから、器械的に利休以
後の規則を鵜呑みにして、こ
れで大方風流なんだろう、と
却って真の風流人を馬鹿にす
る為の芸である。

と、漱石は菌切れよく「道
落」となりやすい側面を喝破
していますが、「…御厭なら
飲まなくたっていい御茶」を、
後日老人からすすめられた場
面では、次のように茶の真髄
を述べているのです。

濃く甘く、湯加減に出た、
重い露を、舌の先へ一しずく
ずつ落として味わって見るの
は閑人適意の韻事である。普

通の人は茶を飲むものと心得
ているが、あれは間違いだ。
舌頭へばかりと載せて、清い
ものが四方へ散れば咽喉へ下
がるべきは殆んどない。只腹
郁たる匂が食道から胃のなか
へ沁み渡るのみである。(中略)

結構な飲料である。眠られぬ
と訴うるものならば、眠られぬ
も、茶を用いよと勧めたい。

この情景には「全兵衛」と
いう茶器が出てくるので、こ
れは煎茶と解釈されています
が、現代の多くの文明批評に
通ずる漱石の茶の評は、いず
れにせよ当を得ています。

本学でもお茶を通して一層
広い自然観や深い人生観に思
いを致されるよう、皆様のこ
精進とご発展を期待していま
す。



学生・就職部長

安藤 貞 治

大妻女子大学茶道部が本年
で創部五十五周年を迎えられ
た。

振り返ってみると、茶道部
が創部された昭和二十四年は、

戦後の混乱が収まりかけてき
た時代で、国内外でいろいろ
な出来事がありました。

国内では第三次吉田内閣が
成立し、通商産業省、総理府、
外務省、大蔵省、文部省など
の官庁が設置されました。

科学では湯川秀樹が日本人
として、初めてのノーベル賞
(物理学賞)を受賞し、スポ
ーツでは古橋広之進が全米水
上選手権大会の自由形三種目
で世界新記録を達成し、プロ
野球のセ・パ両リーグが結成
されました。

社会では五月の第二日曜日を
「母の日」と決め、お年玉
つき年賀ハガキが初めて発売
されました。

国外ではドイツ連邦共和国
(西独)、ドイツ民主共和国(東
独)、中華人民共和国がつき
つきと成立されました。

この年、「駅弁大学」とい
う流行語ができたっており、多
くの大学が設立されました。

その中で大妻女子大学が設立
され、同時に茶道部を創部さ
れました。創部に携わった先
輩方の苦労は大変なものであ
ったと推察いたします。

このような学内外の混沌と
した時期に誕生した茶道部の
一期一会の精神で迎えた五十

五周年に心より拍手を贈りま
す。

この間ご指導くださった諸
先生方に敬意を表するととも
に、厚くお礼を申し上げます。
本学茶道部のますますのご
発展を祈念いたします。



千代田校 師範

浅賀 宗 容

大妻学院に茶道部が誕生し
て今年には五十五周年という節
日の年を迎えましたこと、誠
に喜ばしくうれしいことでご
ざいます。

五十五周年を迎えました現
在でも茶道部の創始者であり
ます柳澤宗測先生やそれを引
き継がれた齋藤宗雅先生のご
指導が茶室やお道具などいた
る所に見え隠れしており、先
生方の思いを感じさせてくれ
ます。

歴史あるゆえに大切にした
いものとして第一に思いま
すのが四畳半の茶室「大妻庵」
です。大妻庵は京都裏千家の
茶室で利休四畳半の典型とも
いえる「又隠(ゆういん)写

し」と伺いました。同じ写し
が靖国神社洗心亭「又隠席」
にあり、その「又隠席」にそ
っくりにつくらせたのが「大
妻庵」とのこと、旧校舎の六
階にありましたものを大切に
現在のアトリウムに移し、建
てられたときのままの姿で今
もありませんは大妻学院の歴
史を感じますとともに、茶道
の真髄を知るにふさわしく、
大きな価値をもったものと感
慨一入でございます。

学生の方々も大切にされ、
大妻祭添釜などでは露地の石
をぬらし（一年日の方が懸命
にしてください）茶席に入
る趣をよくしています。ほ
つと心にゆとりの出る時でも
あるのです。

茶道とは一服のお茶を通し
て始まるのですが、亭主と客
の心の交流でもあるといつて
います。一服のお茶を通して
亭主は心を尽くして客をもて
なし、また客のほうはそうし
た亭主の真心に懸命に答えよ
うとする・・・こうした心
のやりとりをとてみたいせつ
に考えています。（表千家千
宗左先生「茶の湯随想」より）
昔から言い伝えられているこ
とですが、現代にも通じるこ
とだと思います。

茶道部もこれに合わせ、皆
よく活動しております。

これからも部員の方々が一
つになって歩んで欲しいと思
います。そして歴史ある茶道
部のさらなる発展を心よりお
祈り申しあげます。



千代田校 顧問
石井とめ子

大妻学院茶道部が創立され
てから五十五周年を迎え、中
高・大学の茶道部が一緒にな
って茶会を開催する運びにな
りましたこと、まことにおめ
でたくよろこばしい限りでご
さいます。

顧問をお引き受けしてから
早や十八年の歳月が経ちまし
た。当初は顧問としての責任
から、三十八年間の名簿整理
に着手し、OG（卒業生）達
の住所確認のために連絡をと
るなど多くの方々の協力を得
て、その整理が順調に進みま
した。また、二年後の創立四
十周年には初めて「茶道部だ
より」を発行、初代の柳澤宗
潤先生が御存命でいらしたの

で、そのため大妻学院茶道部
の来歴を明らかにすることが
できたことは幸でした。

茶道部との関わりは一年を
通して比較的によく、毎年訪
ねる入部式、夏期合宿、文化
祭、雪待茶会、先輩を送る会
などには必ず参加して、部員
達と共に語り合う機会を持つ
ことを大事にしています。大
妻庵や広間でのお茶会に出席
するたびに部員達の清々とし
た誠実な振舞いに接し、心あ
らわれる思いがいたします。
そして夏期合宿や文化祭、雪
待茶会にはOG達が訪ねられ、
優しく後輩達を見守る姿に大
妻茶道部の伝統の力を感じま
す。先輩達が社会で活躍して
いる根底に、茶道部で培われ
た茶の心が生かされているこ
とを痛感いたします。

また、他大学との交流も活
発で文化祭や雪待茶会などに
は男子学生も参加し、礼儀正
しい若者の姿に、茶の湯の伝
統が受け継がれていることに
安堵感さえ覚えます。

何といっても茶の湯は日本
の工芸美術の粋が集約されて
おり、お稽古を重ねることで
文化的教養並びに芸術的教養
が自然に身につくことを入部
式の時に常々話しております。

利休の侘び・寂びの原点を体
験していただきたいと思つて
おります。

静寂な空間で味わう、まろ
やかなお茶、茶碗の感触、お
だやかな気分がかもされる時、
心身共に癒され、一切の世俗
の雑念から開放される境地を
感じております。



多摩校 師範
中村宗洋

冬麗に輝く木立きよらかに
刻をきざみ雪を待つ

表千家茶道部創立五十五周
年、心よりおよろこび申し上
げます。年月が廻り来て節目
を迎えられますこの年に、再
び懸釜にてご一緒させていた
だきますことは、この上無き
幸せなこと、部員共々深く
感謝いたしております。

落葉して冬籠りゆく樹々の
姿はそのひととせの歴史を刻
みつつ、そして又、万物平安
を願う木霊のひびきと共に、
裸木に梢は天に向かって更に、
新たな夢を拡げてゆくことで
ありましょう。

世界平和の祈りの一碗によ
り、主客共に、のどの渴きも
心の渴きもいやされ、互いの
縁を慈しみあい、和して歩み
ゆけますればと、念つており
ます。

茶道部の素晴らしい伝統を
ご大切になされ、お健やかに
ご活躍されますようお祈り
いたします。



多摩校 顧問
井上源喜

茶道部創立五十五周年、心
よりお祝い申し上げます。茶
道についてはまったくの門外
漢の私が、顧問を引き受ける
ことになったのは、前顧問の
肥川教授がデンマークのニー
ルス・ボーア研究所に海外出
張するので、その代役を引き
受けたことによります。気楽
に引き受けたのは、迂闊だっ
たかもしれませんが、本学の
茶道部は、大学の創立と同時
に誕生した最も伝統ある部で
あることを知り、身を引き締
まる思いです。

茶道の世界では一期一会と

という言葉が用いられますが、これはあらゆる出会いは一生に一度しか起こらないことを意味します。しかし、これは人と人の出会いばかりでなく、森羅万象すべてに通じる言葉です。宇宙は百三十七億年前に誕生しましたが、今までに二度同じことが起こったことはありません。毎日太陽が出て朝がきますが、この間にもあらゆるものが少しずつ変化しております。人の一生も同じで、毎日同じような生活をしており、その変化に気が付かないかも知れません。これが十年前と今を比較すると誰もがその違いに驚きます。学生の皆さんは十年前には小学生や中学生でした。これから人も人や自然との出会いを尊重し、充実した一日一日を送ることが大切です。



高等学校 師範

菅生 宗 其

大妻学院茶道部創立五十五周年を迎えましたことおめでとうございます。半世紀を超える年月を経た今日、大妻茶道部を創立された故柳澤宗淵先生を想い、感無量でございます。中学高校茶道部と共に学んでまいりました三十年は、大変有意義でございました。又本年は中学高校の校舍改築も完了し茶道部五十五周年の記念すべき時、お茶室と和室広間が立派に出来上がりましたこと喜ばしく重ねてお祝い申し上げます。茶道部の行事として新年のお初釜に始まり、夏期集中かい占、きびしい三日間の合宿、おしとやかさいっぱいの文化祭、大学生との雪待茶会等です。表千家では近年学校茶道を重視いたしました若し世代の茶道への認識高揚のため合宿等いろいろの便宜を計っております。毎年京都で学校茶道担当者の講習を行います。千家

の大きな武家門を入り庭を廻って千利休の御尊堂にお参りいたします。静寂の中に脈々と四百年余も受継がれてきた伝統の重みはおろそかに出来ることではないと感じました。近年生活様式の変化に伴い畳に座ることも少なくなり、和室での立居振舞いやお道具の扱い方等の指導につきましても表現がむずかしくなったことを痛感しております。「美しくムダのないお点前」「優しさと思いやりを忘れない心」を大切に、社会へ果立った時に茶の湯を習得してよかったです。歴史有る大妻茶道部の益々のご発展をお祈りいたします。



中高茶道部 顧問

中川 未知子

佐藤 浩美

大妻女子大学茶道部創部五十五周年、おめでとうございます。

また、このたびの雪待茶会に中高茶道部員も参加させていただきます。茶道部の益々の発展をお祈りいたします。

うございます。中高茶道部は、新校舎建設中も大学和室をお稽古の場所としてお借りし、以前と変わらぬお稽古ができましたこと、感謝しております。新校舎が完成し、まだ新しい畳の匂いが残る和室にて、菅生先生ご指導のもと週一回のお稽古にはげんでおります。私たちは茶道部の顧問として、菅生先生に失礼のないよう生徒の指導をいたしているつもりですが、日常の生活にも役立つ茶道の心得を学んでいる生徒から学ぶことの多い毎日です。最後になりましたが、大学茶道部の益々の発展をお祈りいたします。

茶道部の沿革

- 一九六六年 茶室「大妻庵」が誕生。
- 一九七九年 柳澤先生が引退。後任に齋藤宗雅先生を迎える。
- 一九八四年 創立三十五周年記念茶会を催す。
- 一九八九年 創立四十周年記念、「茶道部だより」を創刊。
- 一九九〇年 校舎改築によりC棟地下一階に大妻庵が復元、完成。
- 一九九四年 創立四十五周年を迎え、「茶道部だより」を刊行。
- 一九九九年 創立五十周年を迎え、「茶道部だより」を刊行。
- 二〇〇三年 齋藤先生が引退。後任に浅賀宗容先生を迎える。
- 二〇〇四年 創立五十五周年を迎え、現在に至る。